



和気町 地域公共交通計画

令和6年3月
和気町



目次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の区域と対象.....	1
3. 計画の期間.....	1
4. 計画の位置づけ	1
第2章 地域の現状.....	5
1. 位置・地勢・土地利用	5
2. 人口.....	7
3. 施設の分布.....	10
第3章 公共交通の現状.....	11
1. 公共交通の概況	11
2. 公共交通の利用状況	13
3. 公共交通の利用実態や町民意向.....	16
第4章 前計画（和気町地域公共交通網形成計画）の検証.....	21
1. 和気町地域公共交通網形成計画の概要.....	21
2. 前計画の評価・検証	23
第5章 現状からみた和気町地域公共交通の課題.....	28
第6章 計画の基本理念と目標および実施事業	29
1. 基本理念	29
2. 目標および実施事業	29
3. 目標に対応する課題	29
第7章 実施事業の評価指標およびスケジュール	30
1. 目標全体に対応した評価指標	30
2. 和気町公共交通ネットワークの将来イメージ	31
3. 実施事業に対応した評価指標	32
第8章 計画の推進.....	39

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

本町は、『人・まち・暮らしの「かがやき」を支える』を理念に掲げ、平成30年に和気町地域公共交通網計画を策定し、令和元年にはデマンド型乗合タクシーから定時定路線型の町営バスへ運行形態を変更するなど、公共交通施策を展開してきた。しかし、人口減少と少子高齢化が急激に進行しており、また、自動車依存度は高く、公共交通事業は厳しい状況にある。そのような中でも、高齢者や運転免許を持たない人々の移動手段として、公共交通を維持確保していくことが必要である。

地域の関係者と連携・協働し、町民の移動手段の確保を推進するとともに、持続可能な公共交通サービスを提供するために、「和気町地域公共交通計画」を策定する。

2. 計画の区域と対象

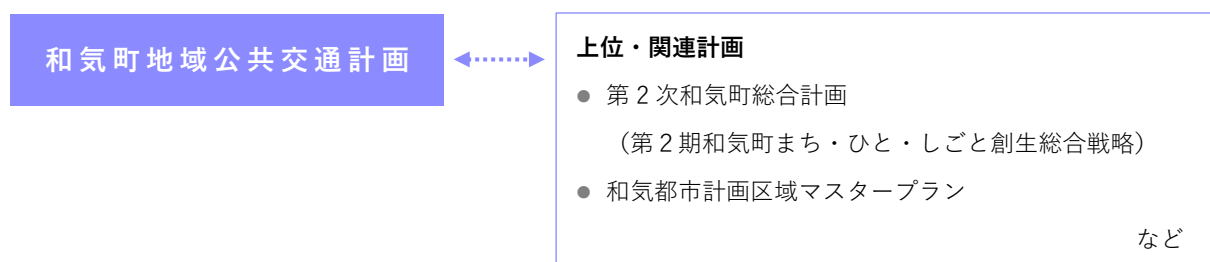
計画の区域は和気町全域とする。計画の対象は、鉄道、バス、タクシー等の公共交通サービスであるが、その他の交通手段（福祉輸送、民間事業者の送迎サービス等）を含めて輸送資源を総動員し、町民や来訪者の移動手段を確保する。なお、介助が必要な人の移動手段については、福祉施策と連携して確保する。

3. 計画の期間

令和6年度から令和10年度の5年間

4. 計画の位置づけ

(1) 上位・関連計画との関係



(2) 上位・関連計画の概要

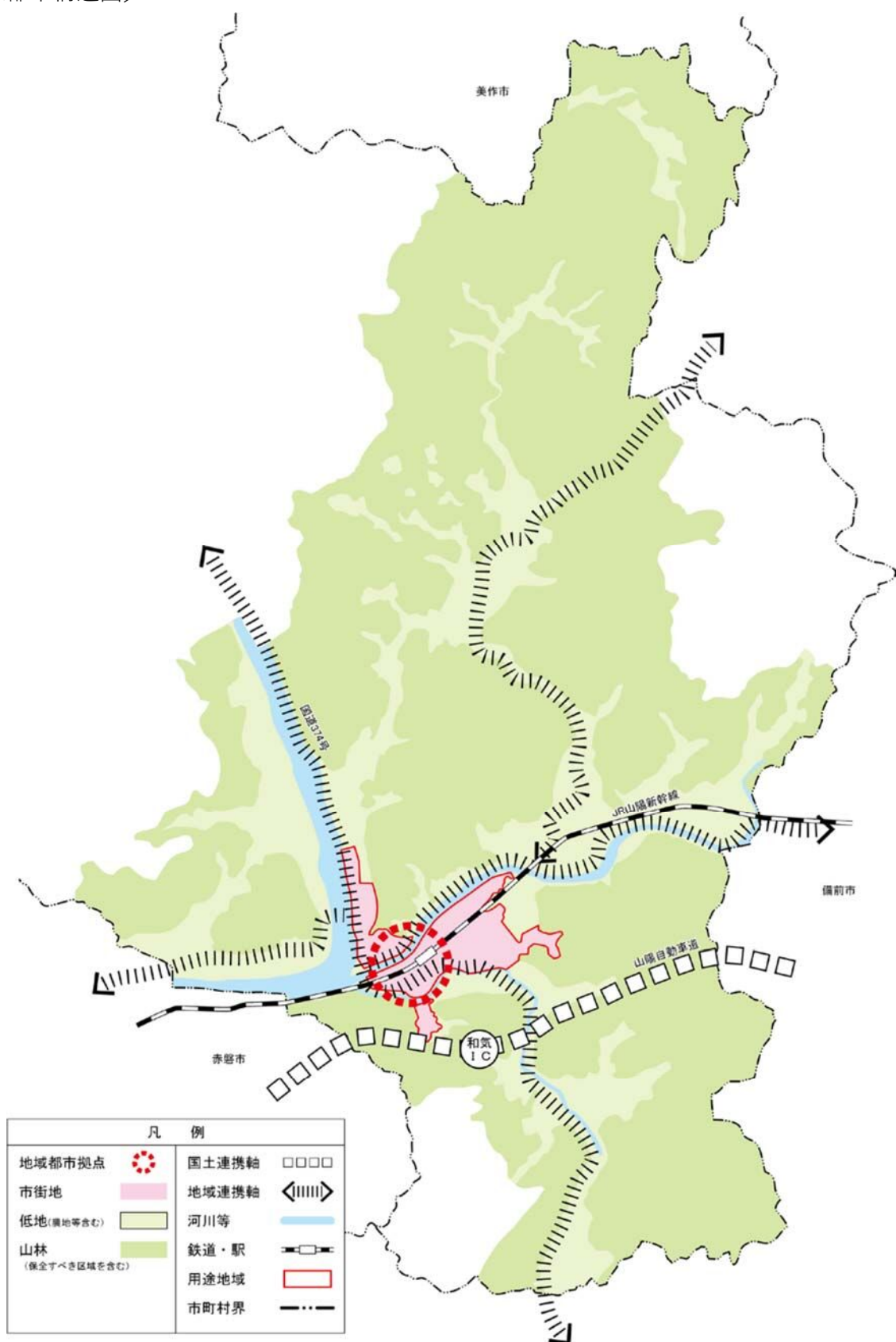
① 第2次和気町総合振興計画（第2期和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略）（2021年3月策定）

◆計画期間	2021年度～2030年度
◆基本理念	～人と地域が輝くために～ ・すべての町民のいのちと暮らしを守り 安心して快適に暮らせるまちを創る ・あらゆる世代が 心身ともに健康で 心豊かに人生を謳歌できるまちを創る ・若者世代を軸に 次世代につながる 活気あるまちを創る
◆まちの将来像	人と地域が輝く 晴れの国の 和気あいあいのまち
◆基本指標	令和12（2030）年の目標人口：12,500人
◆土地利用の基本方針	①定住人口確保のための土地利用の推進 ②人口減少を考慮した土地利用への政策転換 ③自然災害リスクを考慮した安心して暮らせる基盤の形成 ④豊かな自然環境・美しい景観の保全・再生・活用
◆公共交通に関する施策	施策5-2-4 地域を結ぶ公共交通ネットワークの維持・充実 （取組方針） 現在運行している町営バスについては、スクールバスとの併用で運行していますが、町民のニーズを的確に捉え地域の実情にあわせた、きめ細やかな公共交通施策を展開していきます。 また、交通安全施策と併せて高齢ドライバーの運転免許証返納を推進します。 （具体的事業） ・町営バスの利用促進 ・他の公共交通機関との連携強化 ・ラストワンマイル対策の推進

② 和気都市計画区域マスタープラン（2017.3 策定）

◆都市づくりの理念、方針	<都市づくりの基本理念> 自然と共生し、にぎわいのある利便性の高い都市づくり <都市づくりの方針> ・人口減少・少子高齢社会に対応する持続可能な都市づくり ・便利で快適な市街地を形成する都市づくり ・安全・安心で暮らしやすい都市づくり ・環境にやさしい都市づくり ・産業振興による活力のある都市づくり ・個性と魅力あふれる都市づくり ・連携による相互補完を目指した都市づくり
◆公共交通に関する整備・施設配置の方針	<交通体系の整備の方針> ・公共交通の拠点の充実、サービスの向上 ・災害に強く、生活や産業を支える交通ネットワークの充実 ・必要に応じた計画決定による計画的かつ効率的な施設整備 <主要な施設の配置の方針（公共交通）> 鉄 道：環境負荷が小さい鉄道の利用促進に努め、誰もが利用しやすく、安全・安心で暮らしやすいまちづくりに資する施設の整備改善に努めていく。 バ ス：鉄道との連携も考慮した利便性の高いバス網を構成するとともに、バス待合所等付属施設の整備に努め、<u>誰にでもやさしい公共交通としてのバス利用を促進</u>する。 その他：既存の鉄道、バスを利用することが困難な地域においては、地域住民、自治体、交通事業者等の調整により、コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーなど、値域に適した公共交通を持続的に確保する。

〔将来都市構造図〕

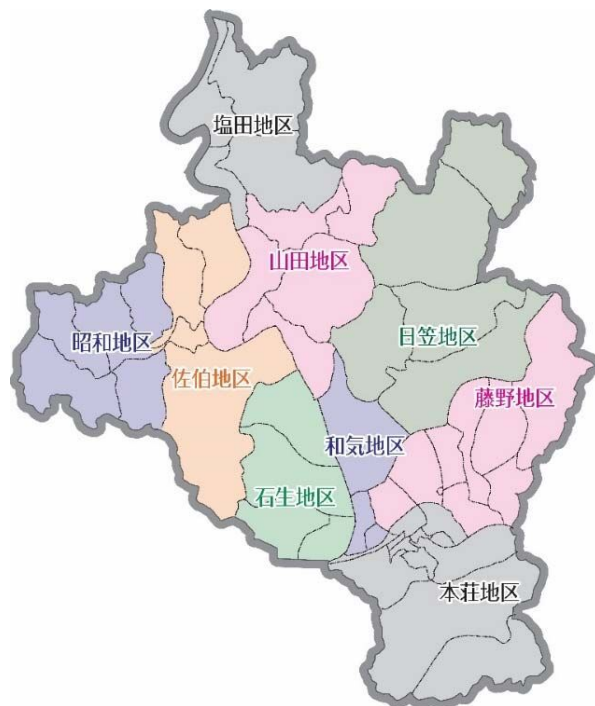
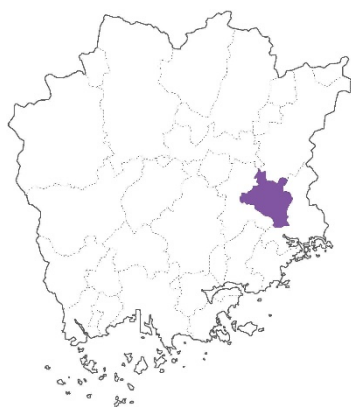


第2章 地域の現状

1. 位置・地勢・土地利用

(1) 位置

- 岡山県南東部に位置し、面積 144.21 km²。備前市や赤磐市、美作市などと隣接している。
- 平成 18 (2006) 年 3 月に旧佐伯町と旧和気町が合併し、現在の和気町が発足。
- 町内は 9 地区に分けられる。



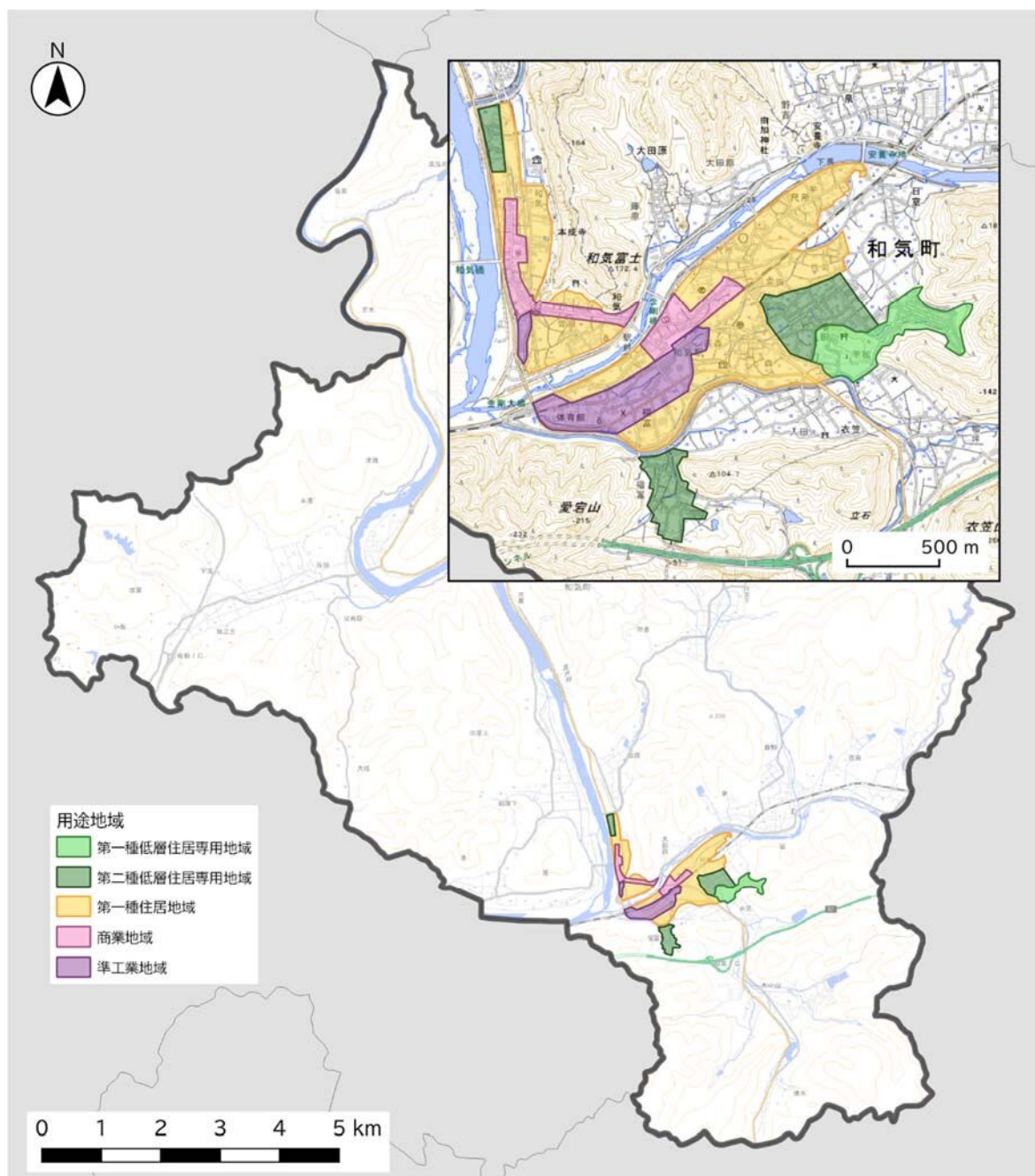
(2) 地勢

- 町の中央を南北に吉井川が貫流し、吉備高原から連なる標高 200～400m の山々に囲まれている。
- 吉井川に沿って国道 374 号、町の西側に佐伯 IC を擁する美作岡山道路が縦断し、東西に和気 IC を擁する山陽自動車道、JR 山陽本線が走り、広域交通の要衝として発展している。



(3) 土地利用

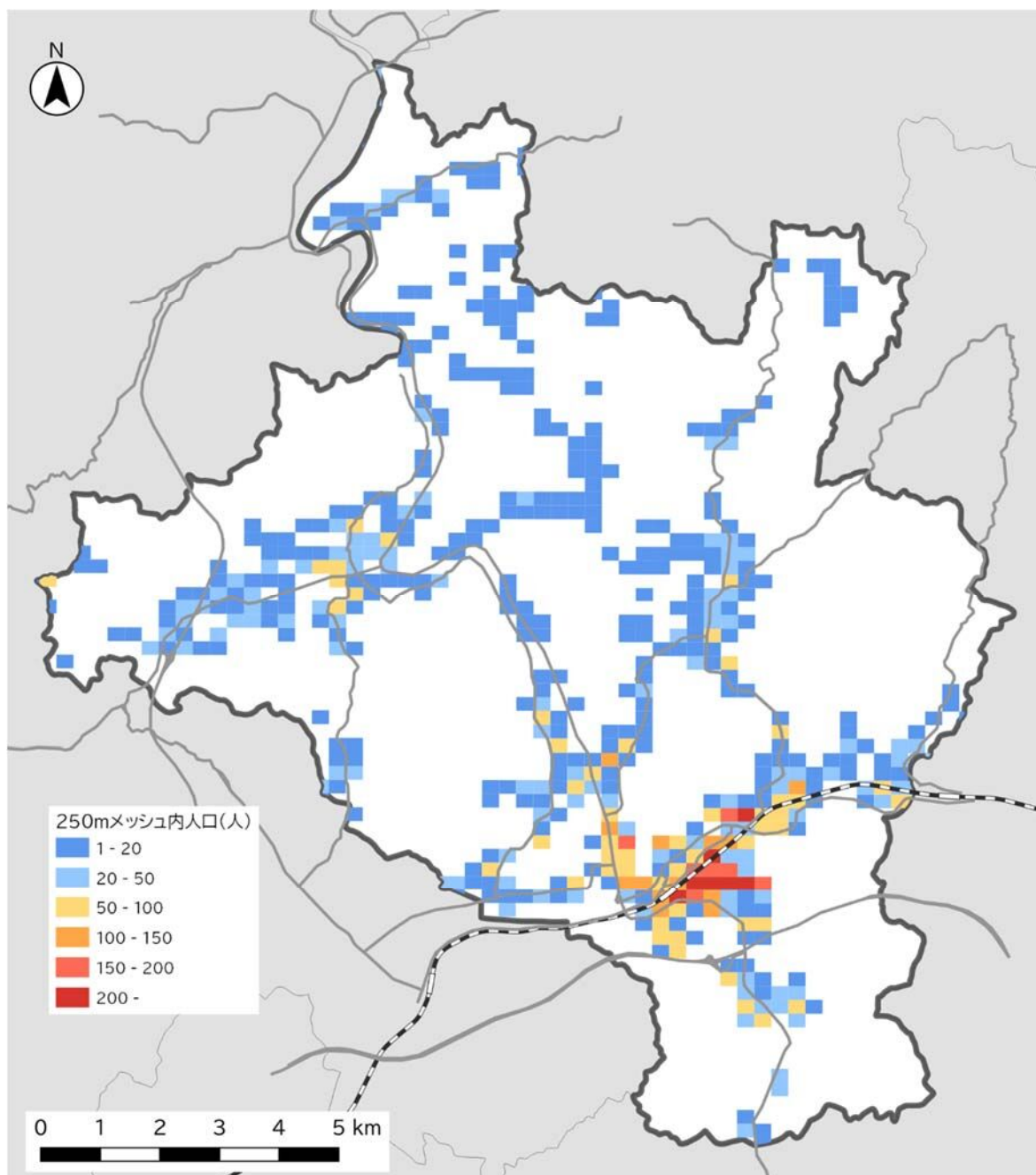
- 旧和気町の中心市街地周辺に用途地域が設定されている。和気駅周辺、吉井川左岸に商業地域・準工業地域が設定されており、その周りに住居地域が設定されている。



2. 人口

(1) 人口分布

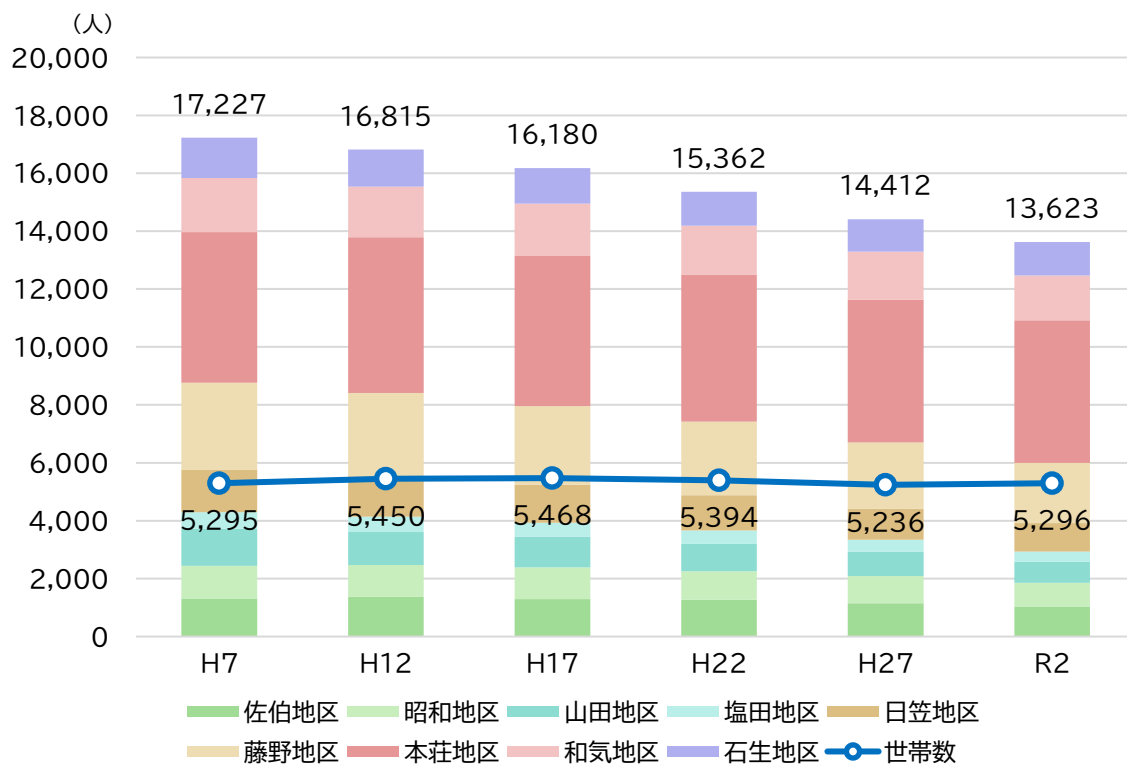
- 主に旧佐伯町、旧和気町の中心市街地に多く分布し、特に和気駅周辺に人口が集中している。



令和2年国勢調査

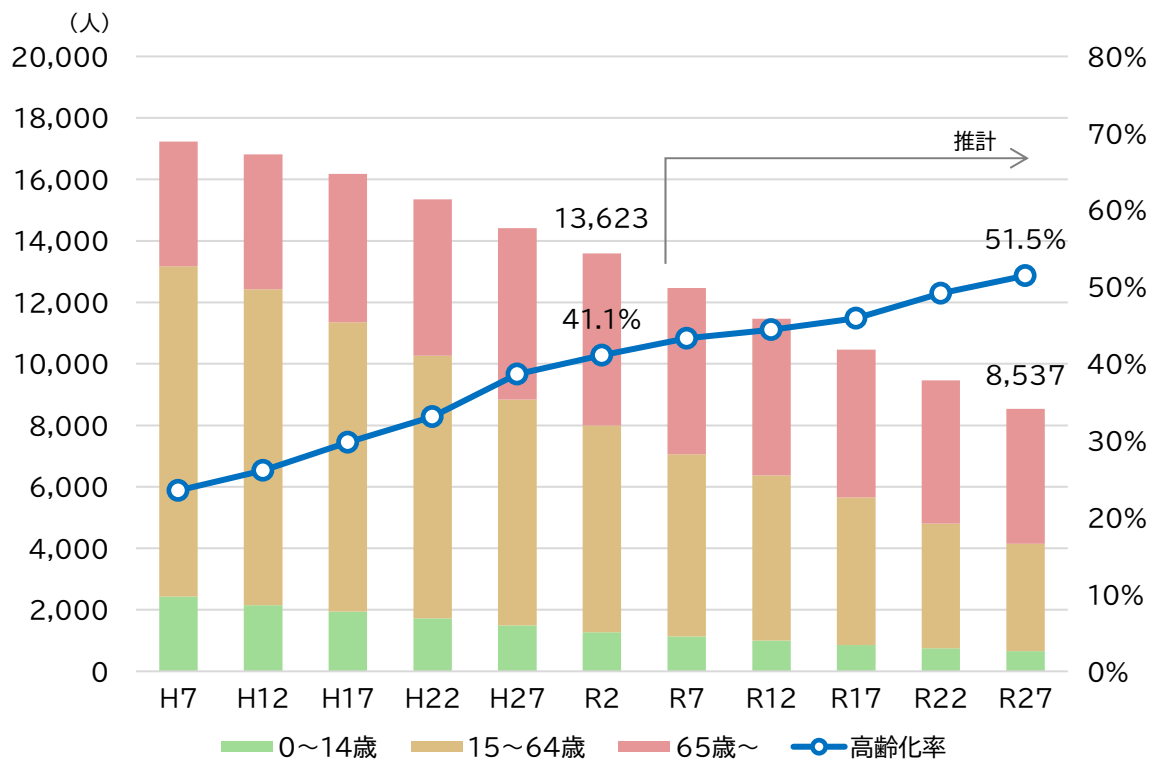
(2) 人口と世帯数の推移

- 人口は減少傾向、世帯数は横ばいである。



(3) 人口と高齢化率の推移

- 令和 27 年には、人口は 4 割減少し、高齢化率は 50%を超えることが予測される。



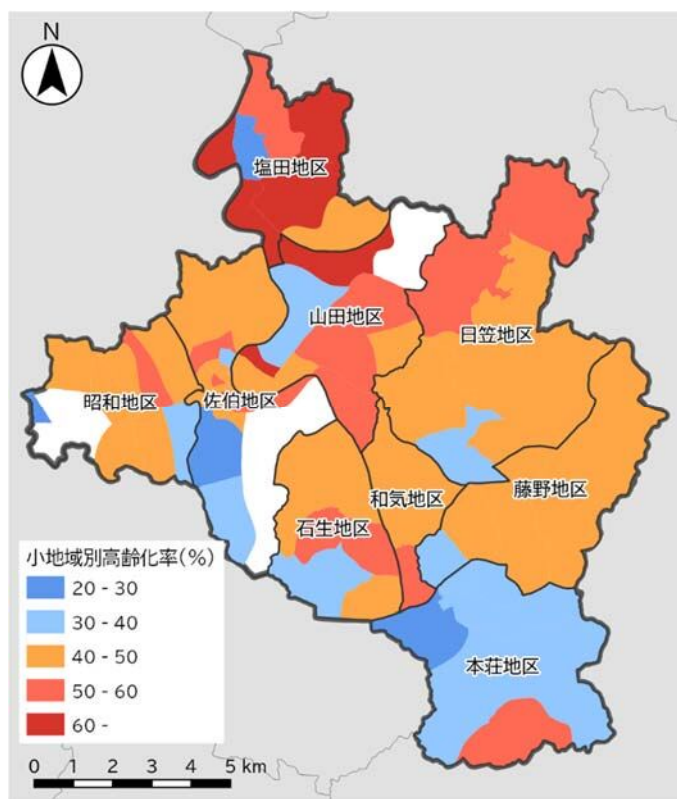
(R2 まで) 国勢調査

(R7 以降) 国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口

(4) 地区別高齢化率

- 地区別高齢化率は、本荘地区を除いたすべての地区で40%を超えており、特に塩田地区は58.6%と最も高い。

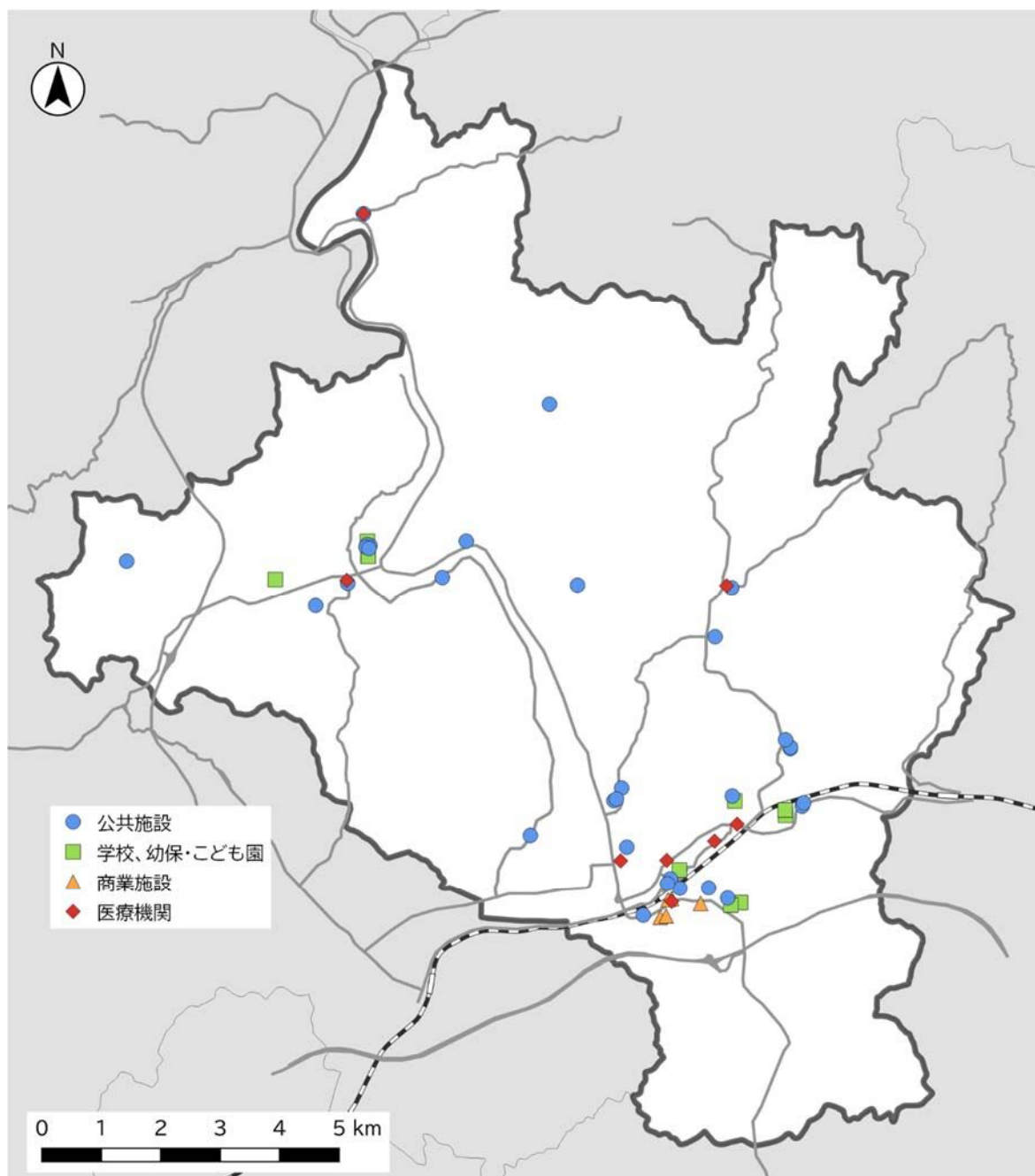
地区	高齢化率(%)
佐伯地区	47.8
昭和地区	40.9
山田地区	48.2
塩田地区	58.6
日笠地区	44.5
藤野地区	44.6
本荘地区	33.0
和気地区	48.0
石生地区	41.6
町全体	41.1



令和2年国勢調査

3. 施設の分布

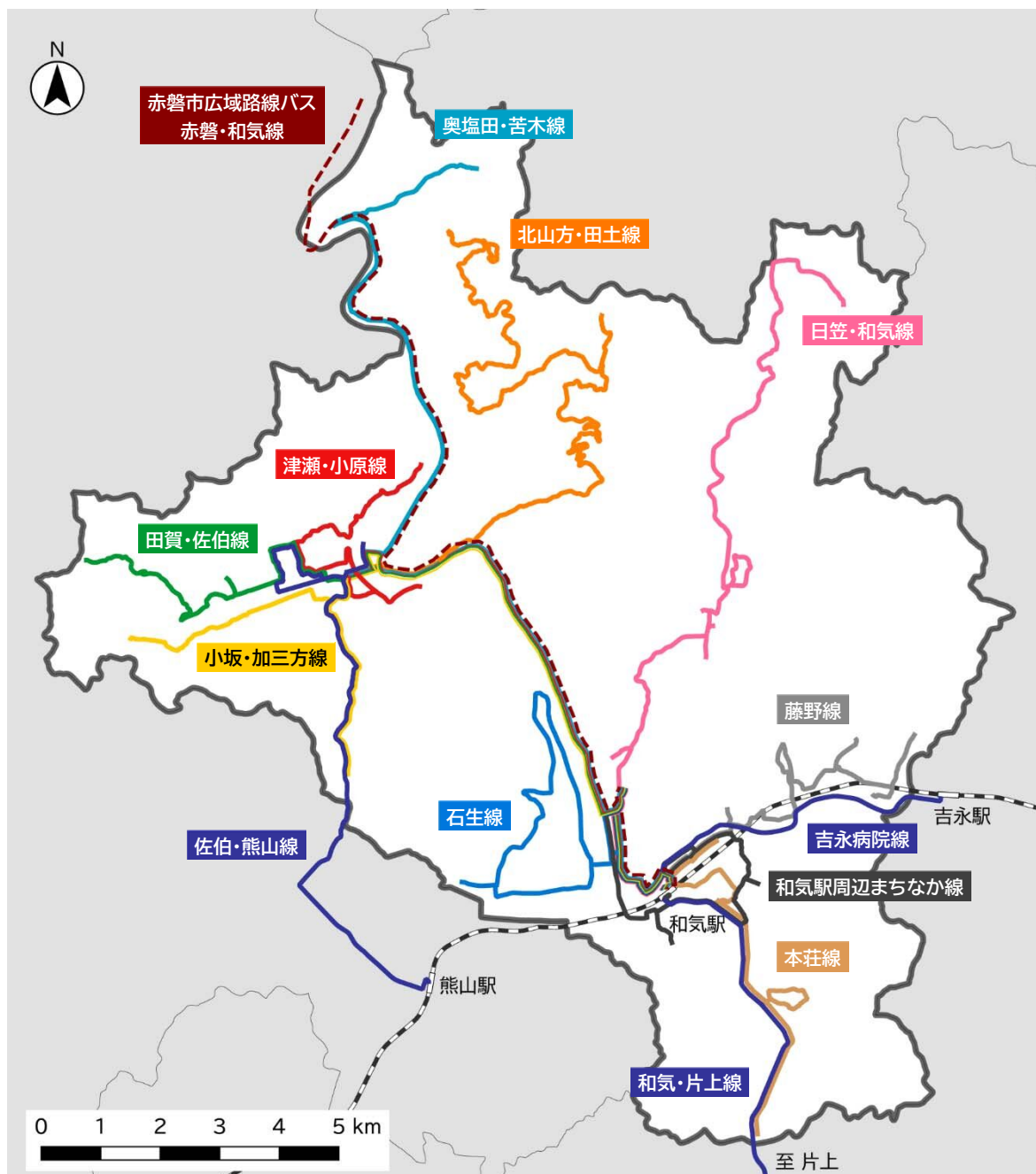
- 公共施設や主な商業施設・医療機関等は旧佐伯町、旧和気町の中心市街地に多く分布している。



第3章 公共交通の現状

1. 公共交通の概況

- 鉄道は、JR 山陽本線が町南部を東西に横断している。
- 赤磐市広域路線バス 赤磐・和気線が赤磐市周匝～和気駅を運行している。
(赤磐市周匝で乗換を行い津山市などへの通学が可能となっている)
- 和気町営バス 13 路線が和気駅や佐伯庁舎を中心に町内各地区を運行している。
(片上方面への通学や買い物、吉永病院への通院が可能となっている)

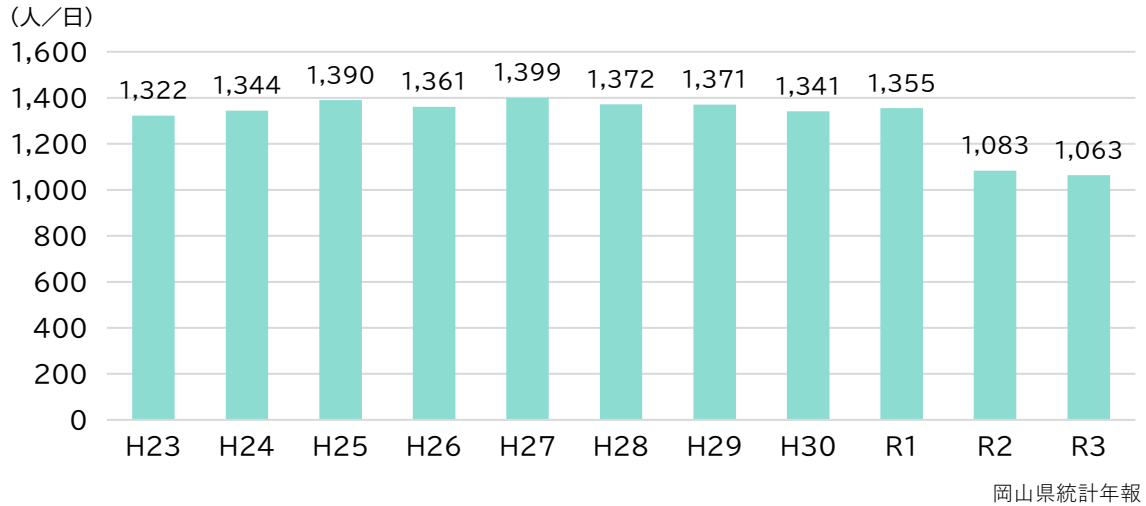


公共交通	運行概要
鉄道（JR 山陽本線）	◇運行本数： ● 平日 （上り） 26 本/日 （下り） 29 本/日 ● 土曜・日曜・祝日（上り） 26 本/日 （下り） 29 本/日
赤磐市広域路線バス（赤磐・和気線） 運行主体：赤磐市、和気町 運行区間：赤磐市周匝～和気駅	◇運行日：月曜～土曜日 （日曜・祝祭日・年末は運休） ◇運行便数： ● 平日（和気駅行） 8 便/日（うち、2 便は塩田止） （周匝行） 6 便/日（うち、2 便は塩田発） ● 土曜（和気駅行） 2 便/日 （周匝行） 2 便/日 ◇料金：区間料金制（150 円～350 円） ※小学生・障がい者等と付添者・おかやま愛カード所持者半額、乳幼児無料 ◇その他：回数券・定期券あり
和気町営バス 奥塩田・苦木線 北山方・田土線 津瀬・小原線 田賀・佐伯線 小坂・加三方線 日笠・和気線 藤野線 本荘線 石生線 和気駅周辺まちなか線 佐伯・熊山線 和気・片上線 吉永病院線 運行主体：和気町 運行区間：各地区～和気駅	◇運行日：月曜日～金曜日（年末年始除く） ◇運行便数：4～6 便/日 ◇料金：1 回 200 円 ※小学生・障がい者等と付添者・おかやま愛カード所持者半額、乳幼児無料 ◇その他 ● 回数券・定期券あり ● 運行車両はスクールバスとの併用のため、学校行事開催日はダイヤ変更・運休の場合あり

2. 公共交通の利用状況

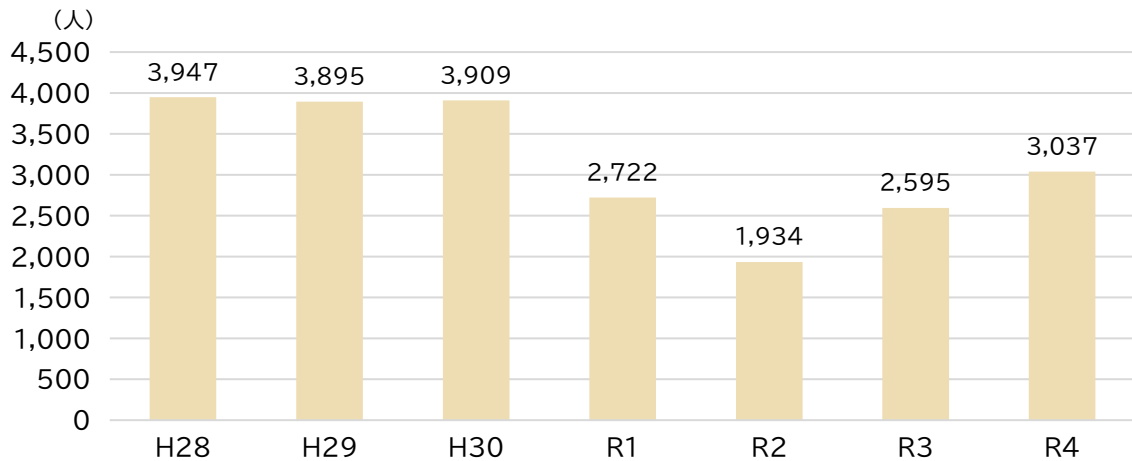
(1) 鉄道

- JR 和気駅の利用者数は、令和元年度以前は横ばいであったが、令和 2 年度以降は新型コロナウイルスの影響で利用者数が落ち込んだ。



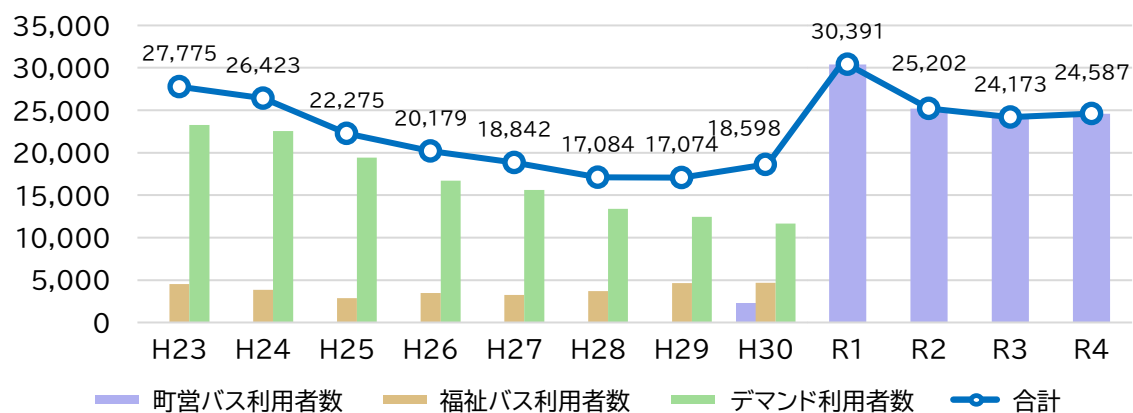
(2) 赤磐市広域路線バス 赤磐・和気線

- 平成 30 年までは約 4,000 人で横ばいに推移していたが、令和元年度から和気町営バスが運行開始したことにより利用者が減少した。

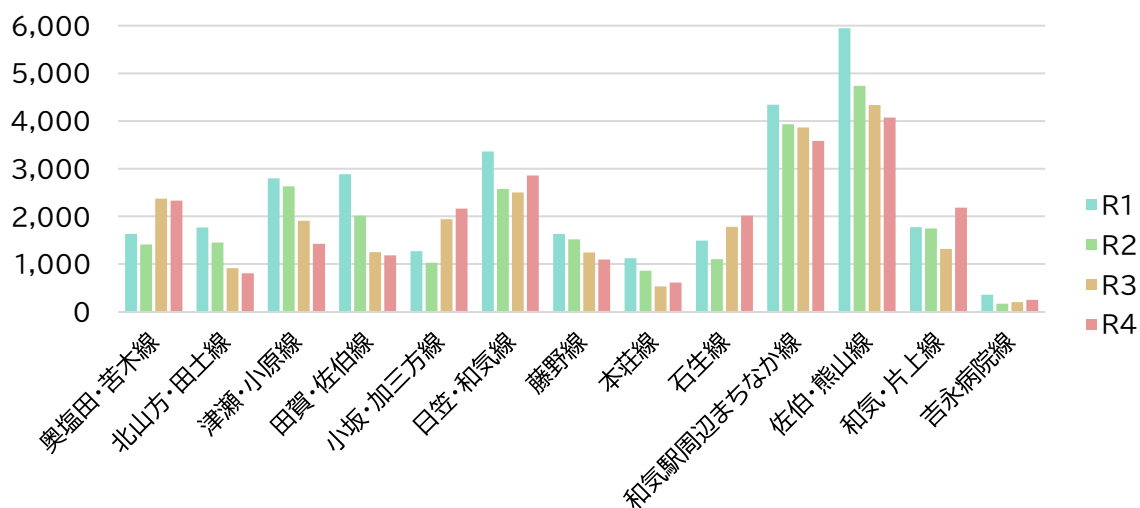


(3) 町営バス

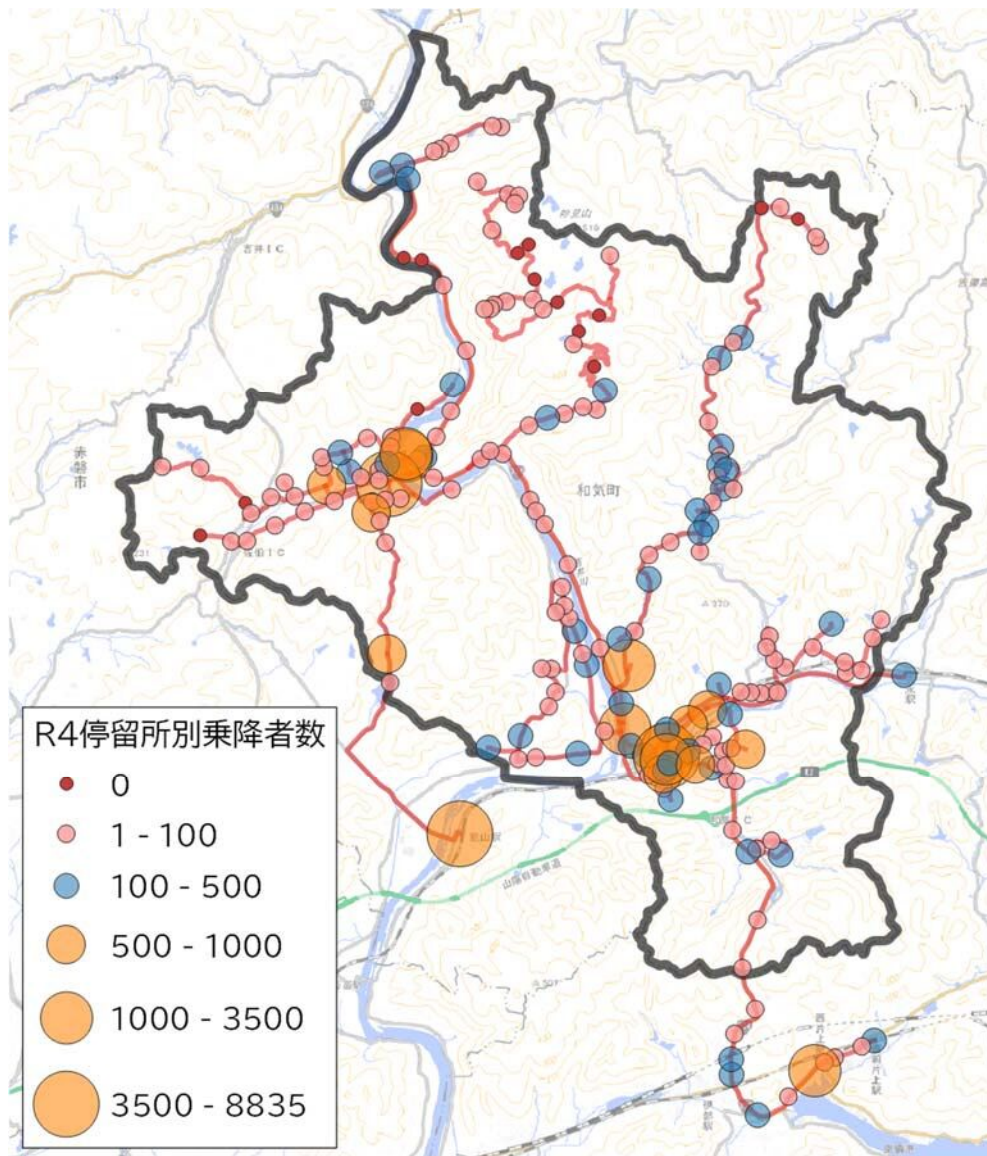
- H30 年まで運行していたデマンドタクシー（和気あいあいタクシー）の利用者数は年々減少傾向にあったが、令和元年度から町営バスに切り替わり、利用者が増加した。



- 路線によっては運行日あたりの利用が5人以下と利用者が少ない路線も見られる。



- 停留所別乗降者数では、年間利用者が全くみられないところもあるが、路線上の拠点となるところでは 100 人以上の乗降がある。
- 佐伯庁舎周辺や和気駅周辺の拠点施設では 500 人以上の乗降客がある。



(4) 公共交通に係る収支率と町負担額

- 町営バスの収支率は約 5%と低い。また、公共交通に係る町の負担額は年々増加傾向にある。

年度	町営バス収支率	公共交通に係る町の負担額(円)
R1	6.4%	50,271,016
R2	5.4%	51,596,109
R3	5.3%	51,716,705
R4	5.2%	53,293,726

3. 公共交通の利用実態や町民意向

公共交通に関するアンケート調査

町民にとってより便利で利用しやすい公共交通を実現するために、通勤・通学、買い物や通院など日常の移動状況や、公共交通に関するご意見を伺うアンケート調査を実施した。

調査概要

対 象：和気町にお住まいの中学生以上の方

配 布：和気町にお住まいの全世帯に1世帯あたり調査票3部を配布（広報わけ2月号とともに配布）

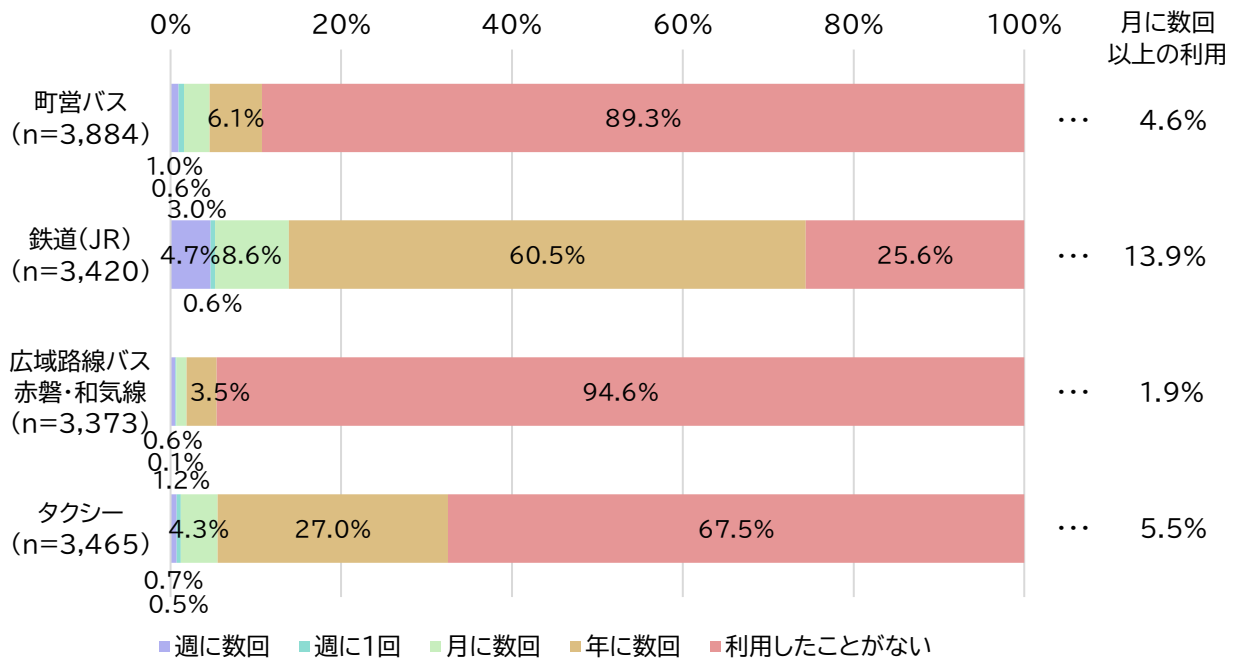
回 収：インターネット回答または郵送にて回収

期 間：令和5年1月末～令和5年2月17日（金）

回収数：4,268部

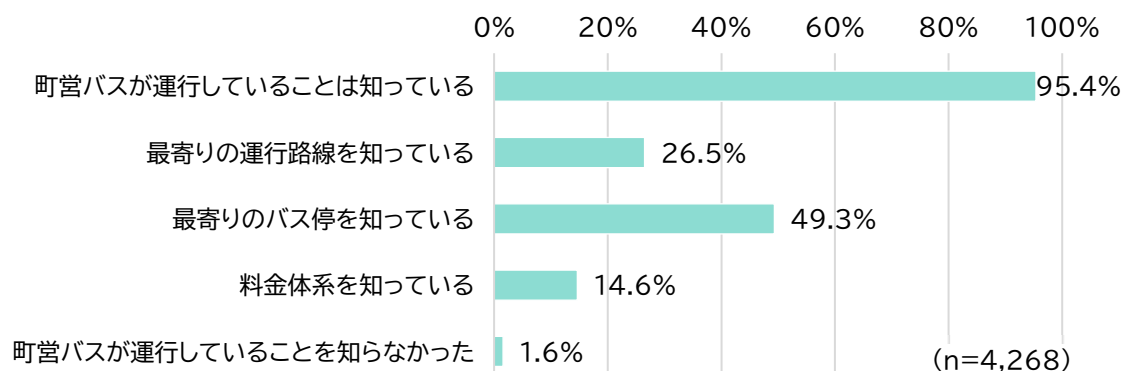
（1）公共交通の利用頻度

- 公共交通の利用頻度は低い。また、町営バスは約9割の人が利用したことがない。



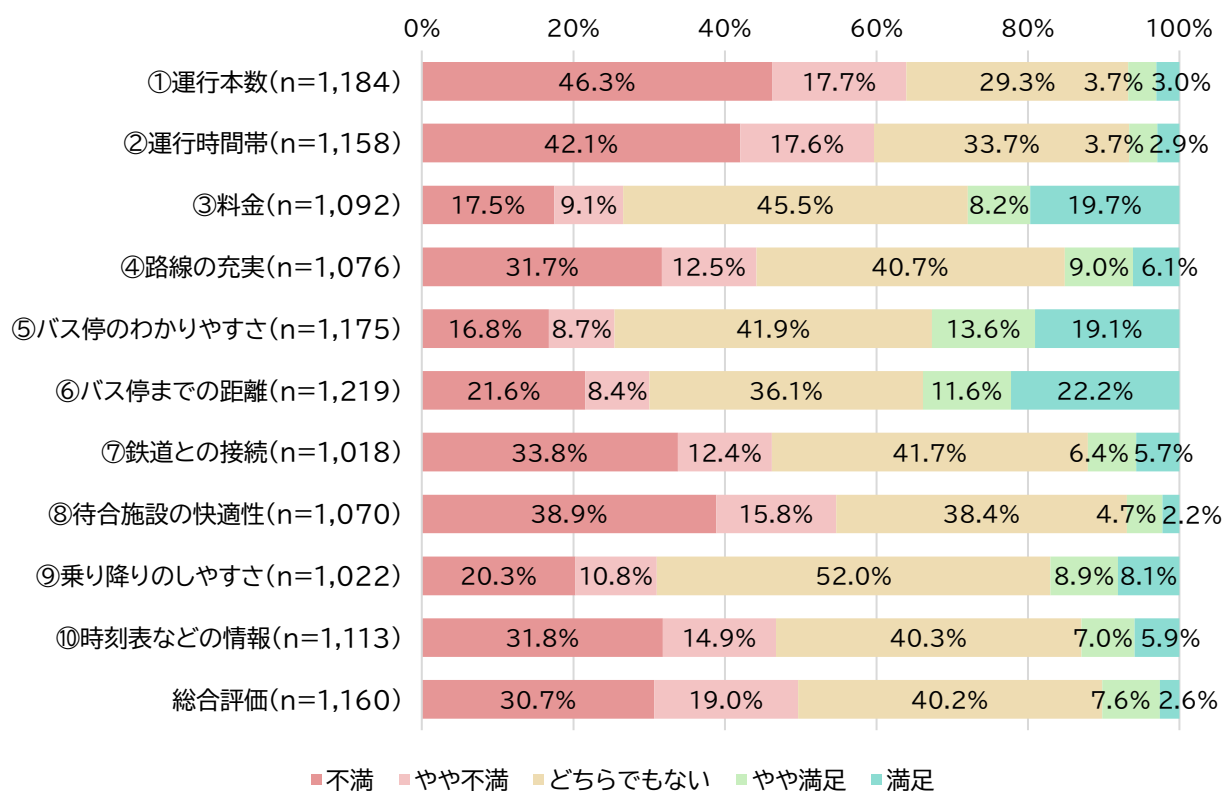
(2) 町営バスの認知度

- 町営バスの認知度は9割を超えている。また、最寄りのバス停を知っている人は約5割であった。



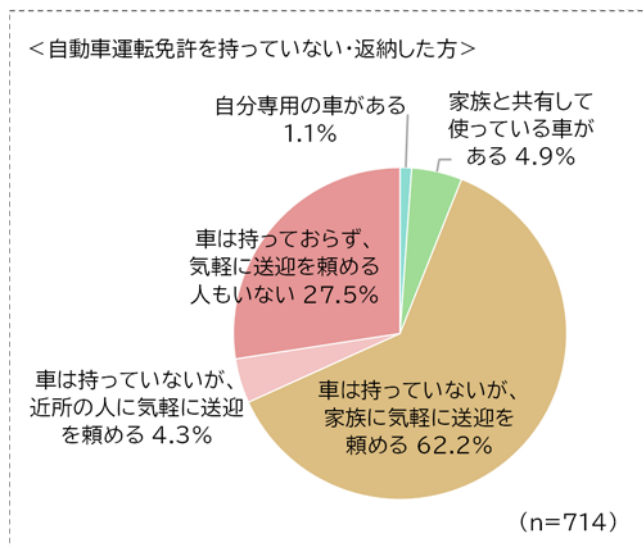
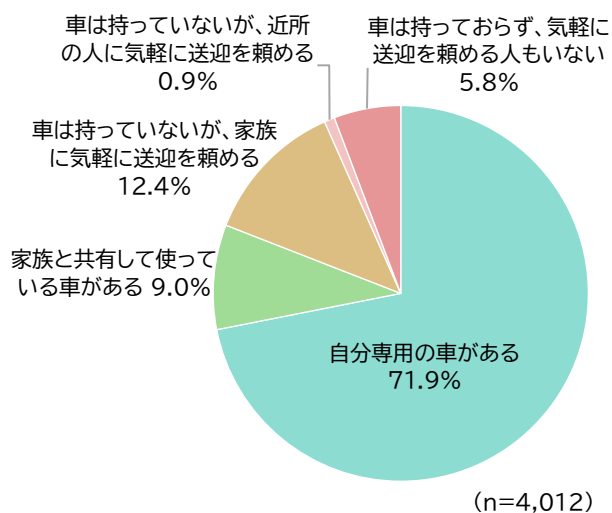
(3) 町営バスの満足度

- 料金、バス停のわかりやすさ、バス停までの距離は、それぞれ約3割の人が満足を示している。一方で、運行本数、運行時間帯、待合施設の快適性は半数以上の人ที่ไม่満を示している。



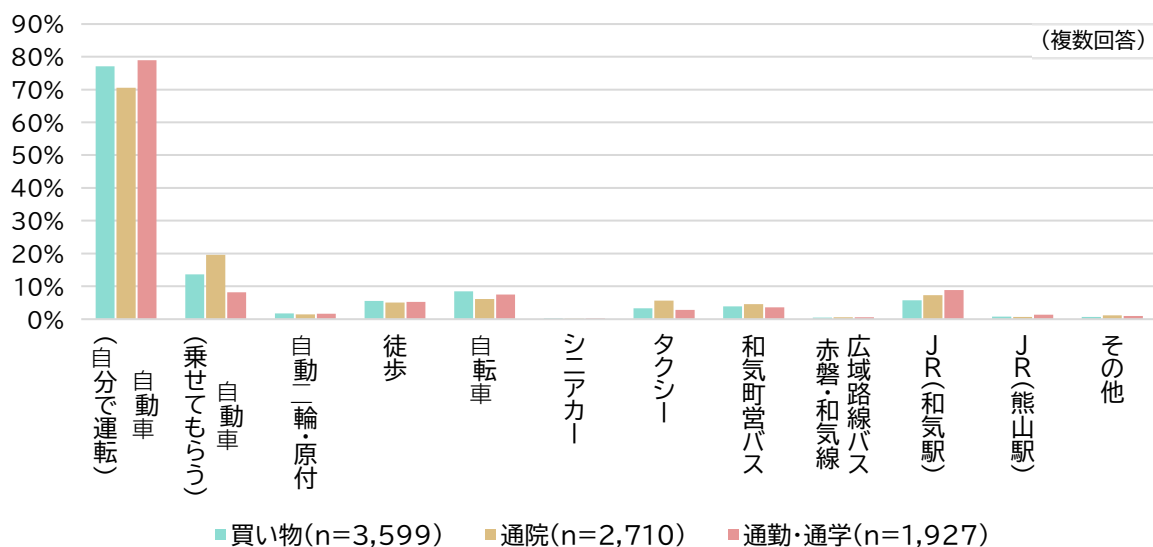
(4) 自分が自由に使える車の状況

- 自分専用の車がある人が約 7 割である。一方、車を運転しない方の約 4 分の 1 は気軽に送迎を頼める人がいない。



(5) 移動目的別の主な利用交通手段

- いずれの目的においても、自分で自動車を運転して移動する人が最も多い。公共交通で移動する人はわずかである。



(6) 買い物先

- よく行く買い物先で最も多いのは、ザ・ビッグ和気店 78.9%、次いで百菜市場和気店 50.8%となっている。地区別で見ても、全地区でザ・ビッグが最も多く、和気駅周辺の小売店へ集まってくる。一方、地区によっては隣接市へ買い物に行くケースもみられる。

商業施設名	所在地	全体 n=3,576	地区別								
			佐伯 n=306	昭和 n=206	山田 n=208	塩田 n=94	日笠 n=271	藤野 n=594	本荘 n=107	和気 n=473	石生 n=313
ザ・ビッグ 和気店	和気町福富	78.9%	73.2%	64.1%	78.8%	59.6%	72.3%	82.5%	80.9%	86.9%	79.2%
天満屋ハピーズ 和気店	和気町衣笠	46.8%	32.4%	22.3%	44.2%	17.0%	50.9%	48.1%	58.2%	46.1%	45.0%
百菜市場 和気店	和気町衣笠	50.8%	37.3%	33.0%	55.3%	29.8%	54.6%	52.5%	56.4%	51.4%	52.4%
ゴダイドラッグ 和気店	和気町福富	39.3%	30.1%	18.4%	37.0%	14.9%	38.4%	40.9%	48.4%	41.6%	35.1%
ザグザグ 和気店	和気町福富	46.1%	39.9%	34.0%	47.1%	22.3%	44.3%	47.3%	50.5%	50.7%	46.3%
マルナカ 山陽店	赤磐市	3.0%	8.5%	10.7%	5.3%	6.4%	1.8%	1.0%	1.0%	2.5%	1.9%
マルナカ 備前店	備前市	1.7%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	2.7%	3.1%	1.1%	0.6%
ティオ 吉井店	赤磐市	1.5%	5.2%	0.5%	4.8%	23.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
Aコープ くまやま店	赤磐市	1.3%	5.2%	1.9%	0.5%	0.0%	0.4%	0.2%	0.3%	0.8%	4.8%

(複数回答)

(7) 通院先

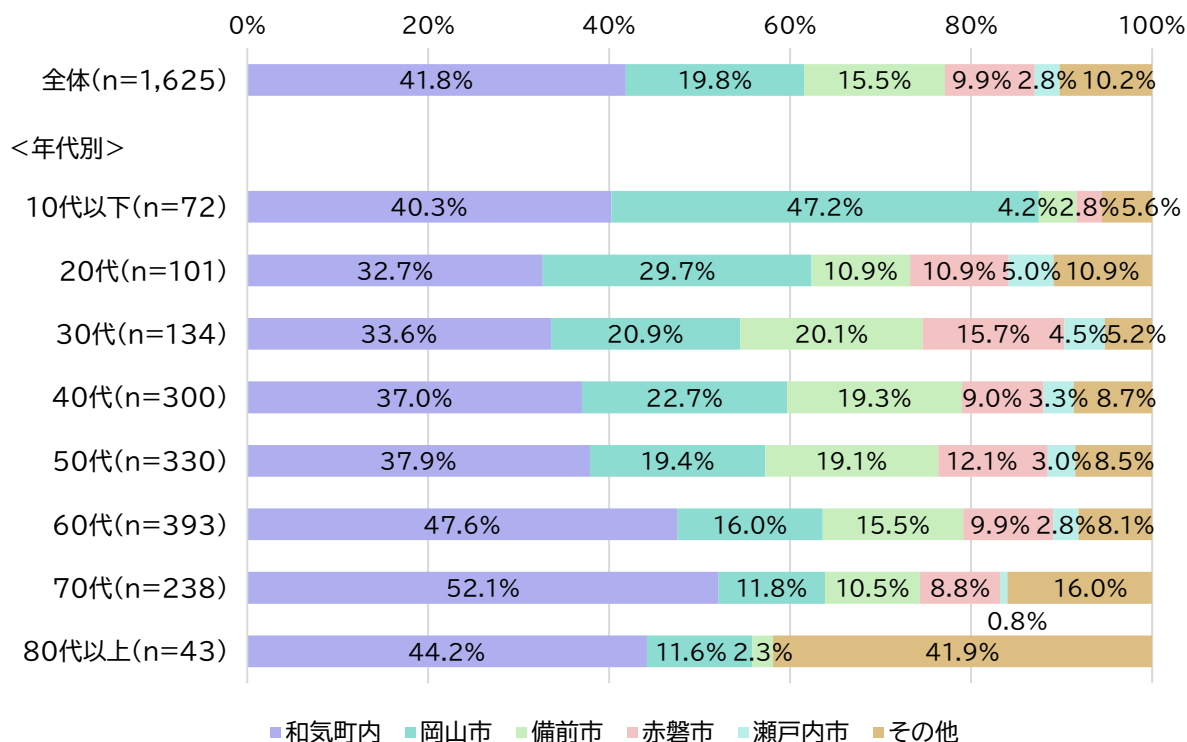
- 定期的な通院は北川病院や平病院が多く、岡山市内の総合病院や近くの医院もみられる。

医療機関名	所在地	全体	地区別								
			佐伯	昭和	山田	塩田	日笠	藤野	本荘	和気	石生
北川病院	和気町和気	918	85	64	80	28	62	91	210	168	118
平病院	和気町尺所	686	40	53	40	14	43	121	242	69	56
吉永病院	備前市	428	10	5	18	1	44	153	132	37	25
なかつか眼科	和気町衣笠	320	22	18	20	8	25	61	90	41	30
大田原医院	和気町大田原	202	3	4	1	1	10	59	72	27	20
岡山医療センター	岡山市北区	94	6	9	8	3	9	16	19	7	15
岡山済生会病院	岡山市北区	86	18	9	5		3	12	25	8	5
武内歯科医院	和気町福富	85	2				4	26	36	13	4
渋藤医院	和気町父井原	83	37	25	12	6			1		
岡山大学病院	岡山市北区	79	9	4	4	3	3	6	37	11	2
岡山東部脳神経外科東備クリニック	岡山市東区	77	14	4	5	3	4	14	22	5	4
はたがみ歯科	和気町衣笠	60	1		2		2	10	21	13	10
平井歯科医院	和気町衣笠	39			3		3	6	15	5	6
安達歯科医院	和気町衣笠	33			1		7	6	13	3	3
かわい歯科クリニック	和気町佐伯	31	7	9	8	4	1	2			
榊原病院	岡山市北区	31	3	4	4		3	3	7	5	1
赤磐医師会病院	赤磐市	30	6	7		5	1	1	3	6	1
那須眼科	赤磐市	30	5	6	3	1	4	2	6	1	2
武田整形外科	備前市	29	1	1	2		2	1	15	2	4
こしむね瀬戸クリニック	岡山市東区	29	2	2	1		4	5	10	4	1
熊山診療所	赤磐市	27	2	1	2			3	1	2	15
川崎医科大学総合医療センター	岡山市北区	26	2	3	3		2	3	7	1	4
草加病院	備前市	24	1	1	1				15	4	2
岡山ハートクリニック	岡山市中区	24	3	3	2			4	7	1	4
日笠診療所	和気町日笠	24					21				3
備前病院	備前市	23	2		1		2	3	11	2	2
森クリニック	赤磐市	21	3		2	16					

(複数回答)

(8) 通勤・通学先

- 通勤・通学先は和気町内 41.8%が最も多く、次いで岡山市 19.8%、備前市 15.5%、赤磐市 9.9%となっている。年代別に見ると、10代は岡山市が 47.2%と、岡山市へ通学している人が多い。



(9) 公共交通に求めるサービス

- 現在の路線バス以外で公共交通に求めるサービスとしては、デマンド交通やタクシーチケットを望む声が多くあがっている。

	全体 n=2,691	地区別								
		佐伯 n=237	昭和 n=174	山田 n=175	塩田 n=72	日笠 n=213	藤野 n=448	本荘 n=785	和気 n=325	石生 n=241
予約をすると自宅付近まで迎えに来てくれ、目的地まで直接乗り入れる交通サービス（デマンド交通）	70.3%	67.9%	81.6%	73.1%	73.6%	74.2%	74.6%	66.9%	67.4%	66.8%
タクシー利用料金を補助するチケット	56.0%	50.2%	56.3%	53.7%	47.2%	50.7%	56.7%	57.3%	59.1%	60.2%
バス料金のキャッシュレス決済やデジタル乗車券	16.3%	16.0%	9.2%	20.0%	8.3%	12.2%	14.7%	19.5%	19.7%	13.7%
その他	6.5%	7.6%	3.4%	6.9%	11.1%	4.7%	5.8%	6.9%	6.8%	7.1%

(複数回答)

第4章 前計画（和気町地域公共交通網形成計画）の検証

1. 和気町地域公共交通網形成計画の概要

（1）前計画策定時における問題点と課題

問題点	問題点の概要	取り組むべき課題
①利用客の減少	- 登録者数の減少 - 乗りたい便に乗れないことによる減少	- 高齢運転者の免許返納後の移動手段確保 - 公共交通に対する確実性の確保
②利用客の固定	- 人気の便は常連客で埋まる - 新規顧客獲得のための動きをしていない	- 幹線の機能確保 - 新規利用者の開拓
③まちなかの移動	- まちなかの移動手段が限られている - まちなか拠点の魅力が少ない	- まちなかの移動手段の確保 - まちの賑わいへの貢献
④利便性と信頼性	- 利便性は高いが1件あたりの時間がかかる - 時間が読めないまま待たされる - 予約がとれないこともあり信頼性がない	- 公共交通に対する信頼性の確保 - 利用環境の改善 - 改善・見直しの仕組みづくり
⑤高齢化への対応	- 高齢者などへ配慮した車両ではない - 高齢者などへ配慮した運行ルートではない	- バリアフリー車両の導入 - 待合スペースの充実

（2）前計画の理念と基本方針

理 念

人・まち・暮らしの
「かがやき」を支える

基本方針1：「信頼性」の高い公共交通で、健やかな暮らしを支える

信頼性が高く、快適な公共交通サービスを提供し、外出頻度の向上や健康寿命を延ばすことに繋げる。

基本方針2：JR 和気駅周辺の中心拠点へ人を集め、まちづくりとの連携により生活の質の向上を支える

商業施設や飲食店などとの連携により公共交通と連動したサービス提供することで、魅力的な中心拠点を創出し、町民の生活の質の向上を実現する。

基本方針3：公共交通の維持・存続のためのしくみづくりに取り組む

継続的なモニタリングを行うとともに、町民との協働により、公共交通を守り育てる活動を推進する。

(3) 前計画の実施する事業と実施スケジュール

基本方針	目標	事業内容	実施スケジュール				
			H30	H31	H32	H33	H34
基本方針1 「信頼性」の高い公共交通で、健やかな暮らしを支える	【目標①】 生活を支える交通機能の提供	町民の生活時間帯に合わせた交通サービスを提供し、公共交通のみで生活できる環境を創出する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
	【目標②】 定時性・安全性の担保	モニタリングによる定期的な見直しを実施し、定時運行を確保する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
	【目標③】 健やかな暮らしの促進に貢献	公共交通を使って外出頻度を増やすことにより、町民の健康寿命延伸に貢献する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
基本方針2 JR和気駅周辺の中心拠点へ人を集め、まちづくりとの連携により生活の質の向上を支える	【目標④】 商業施設等との連携	商業施設等との連携により、魅力的で賑わいのある中心拠点を創出する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
	【目標⑤】 中心拠点内のモビリティ向上	中心拠点の主要施設を繋ぐ移動サービスを提供する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
	【目標⑥】 待合スペースの充実	医療機関や商業施設等との連携により待合スペースを充実する	実施	継続			
基本方針3 公共交通の維持・存続のためのしくみづくりに取り組む	【目標⑦】 周知活動と利用促進	定期的に周知活動を行うとともに、利用者の声を収集する	実施	継続			
	【目標⑧】 協働の取り組み推進	乗って支える公共交通のサポーター制度を創設する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			

2. 前計画の評価・検証

<前計画の評価・検証>

目標① 生活を支える交通機能の提供

町民の生活時間帯に合わせた交通サービスを提供し、公共交通のみで生活できる環境を創出する

【実施状況】

平成 30 年度	・ 町全域で定時定路線運行をする和気町営バスの路線・ダイヤを検討。 1 月から試験運行を行う。
令和元年度	・ 4 月から和気町営バス本運行を開始。 ・ 10 月に路線・ダイヤ改正。
令和 2 年度	・ 11 月に路線・ダイヤ改正。
令和 3 年度	・ 5 月に路線・ダイヤ改正（佐伯～和気駅間の路線集約など大幅変更）。
令和 4 年度	・ 10 月に和気・片上線増便（備前市運行分）。

評価指標・数値目標	実績	達成状況
便別の利用者数 <13,391 人／年（H28） → 21,300 人／年（H34）>	和気町営バス利用者数 令和元年度：30,391 人 令和 2 年度：25,202 人 令和 3 年度：24,173 人 令和 4 年度：24,587 人	○
J R 和気駅乗降客数 <2,798 人（H27）→3,000 人（H34）>	JR 和気駅乗降客数 平成 30 年度：2,682 人 令和元年度：2,710 人 令和 2 年度：2,166 人 令和 3 年度：2,126 人	×

<前計画の評価・検証>

目標② 定時性・安全性の担保

モニタリングによる定期的な見直しを行い、定時運行を確保する

【実施状況】

平成 30 年度	
令和元年度	・ GPS ロガーを町営バス全車両に搭載。
令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
モニタリング（到着時刻の遅れ） <目標値 0 回>	（モニタリング未実施）	—
モニタリング（急発進） <目標値 0 回>	（モニタリング未実施）	—

<前計画の評価・検証>

目標③ 健やかな暮らしの促進に貢献

公共交通を使って外出頻度を増やすことにより、町民の健康寿命延伸に貢献する

【実施状況】

平成 30 年度	
令和元年度	
令和 2 年度	
令和 3 年度	・ 高齢者の免許返納促進とのタイアップ事業の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を見送る。
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
外出率の向上（アンケート調査） <買い物に公共交通利用 8.2%（H28） →10%以上（H34）>	令和 4 年度アンケート調査 買い物にバスまたは鉄道を利用 9.1%	×
歩数計による計測モニター登録者数 <モニター登録数 10 名（累計）H34>	（未実施）	×

<前計画の評価・検証>

目標④ 商業施設等との連携

商業施設等との連携により、魅力的で賑わいのある中心拠点を創出する

【実施状況】

平成 30 年度	(未実施)
令和元年度	
令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
サービス提供店舗数（協賛店数） <5 箇所（累計）（H34）>	（未実施）	×
特典数（サービス企画数） <5 企画（累計）（H34）>	（未実施）	×

<前計画の評価・検証>

目標⑤ 中心拠点内のモビリティ向上

中心拠点の主要施設を繋ぐ移動サービスを提供する

【実施状況】

平成 30 年度	・町なかエリアの主要な施設をまわる「和気駅周辺まちなか線」を運行。 （平成 31 年 1 月～試験運行、4 月～本運行）
令和元年度	
令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
移動サービスの利用者数 <年間利用者数 2,500 人（H34）>	和気駅周辺まちなか線利用者数 令和元年度：4,345 人 令和 2 年度：3,936 人 令和 3 年度：3,864 人 令和 4 年度：3,582 人	○

目標⑥ 待合スペースの充実

医療機関や商業施設等との連携により、待合スペースを充実する

【実施状況】

平成 30 年度	
令和元年度	・和気駅、北川病院、和気鶴飼谷温泉、図書館、佐伯プラザ、和気町役場本庁舎、和気町役場佐伯庁舎の 7 箇所に待合スペースを設置。
令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
待合スペース設置数 <5 箇所（累計）（H34）>	7 箇所（令和 5 年 3 月時点）	○
協力施設数 <5 施設（累計）（H34）>	7 箇所（令和 5 年 3 月時点）	○

目標⑦ 周知活動と利用促進

定期的に周知活動を行うとともに、利用者の声を収集する

【実施状況】

平成 30 年度	
令和元年度	・広報わけに町営バスに関する記事を掲載。 ・車両に路線ごとに異なるカラーのマグネットを貼り付ける。 ・町営バス時刻表・路線図を全戸配布。
令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	・アンケート調査を実施。

評価指標・数値目標	実績	達成状況
情報発信数 <広報わけ年間掲載数 4 回/年>	広報わけ掲載数 令和元年度：2 回 令和 2 年度：1 回 令和 3 年度：0 回 令和 4 年度：3 回	×
認知度（アンケート調査） <和気あいあいタクシー認知 71.0%（H28） →公共交通認知度 80%以上（H34）>	令和 4 年度アンケート調査 町営バスの認知度 95.4%	○

目標⑧ 協働の取り組み推進

乗って支える公共交通のサポーター制度を創設する

【実施状況】

平成 30 年度	
令和元年度	・和気町営バスの運行開始に伴い、利用期限内は町営バス全路線が利用できる定期券を導入。
令和 2 年度	
令和 3 年度	・広報紙にて利用者モニター紹介、町営バスで行く観光地紹介を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から実施を見送る。
令和 4 年度	

評価指標・数値目標	実績	達成状況
定期券購入数 ＜定期券購入数 300 枚/年＞	定期券購入数 令和元年度：125 枚 令和 2 年度：147 枚 令和 3 年度：174 枚 令和 4 年度：134 枚	×
タクシーチケット利用数 ＜タクシーチケット利用者 750 枚/年＞	(未実施)	—

第5章 現状からみた和気町地域公共交通の課題

公共交通の特徴と問題点から取り組むべき課題を次のとおり整理する。

町民のニーズに合わせた移動手段の確保

町営バスは通勤・通学、買い物、通院等、様々な目的で利用されている。令和元年に町営バスに切り替えてから利用者は増加したが、一方でデマンド交通やタクシー補助を望む声もある。関係部局や町内の交通事業者と連携を図り、多様な移動手段を提供することが必要である。

まちづくりとの連携

まちなか線の利用は好調なものの、路線延長が長く運行本数が少ない。また、和気駅の南北両方の目的地を繋ぐ路線にはなっていない。まちなか線の充実とともに、周辺の商業施設等へ行く利便性を高め、さらに、商業施設と協力した取組により、まちづくりと連携させる必要がある。

町民の公共交通意識の向上

町民のほとんどが自動車で移動しており、公共交通の利用はわずかである。公共交通の収支率も低く、町の負担額は増加しているため、みんなで支える視点で公共交通の利用促進が必要である。

公共交通の利便性の向上

アンケートから町営バスの満足度が低い項目は、運行本数や時間帯、待合施設の快適性などがあげられる。また、キャッシュレス支払いなどのデジタル化や自動運転へ向けた取り組みなど新技術の導入が遅れている。効率的な運行とスマートなサービスで利便性を向上し、利用したくなるような公共交通を提供する必要がある。

第6章 計画の基本理念と目標および実施事業

公共交通の特徴と問題点及び課題を踏まえ、計画の理念と目標および実施事業を次のとおり定める。

1. 基本理念

基本理念 みんなで支え合う、人にやさしい公共交通

2. 目標および実施事業

目標1 多様な移動手段を選択する

- 1-1 早朝は遠方への通学支援・通勤支援
- 1-2 通学時間帯は、小中学生の通学支援
- 1-3 昼間は、高齢者等の通院や買い物のための移動支援
- 1-4 利用状況に応じたサービスの提供（予約なしの路線バスの充実、予約型デマンドの一部導入）
- 1-5 福祉部局と連携・調整を図り、移動が少し困難な方への支援
- 1-6 限られた資源をうまく配分し、多様な移動手段を確保
- 1-7 乗り継ぎ拠点の整備

目標2 和気駅周辺の賑わいを創出する

- 2-1 和気町のどこに住んでいても、和気駅まで移動できる
- 2-2 和気駅周辺の病院や商業施設を周遊するまちなか線を充実
- 2-3 商業施設との連携により利便性向上（購入した荷物の配達など）
- 2-4 待ち時間を楽しめるよう、待合空間の創出

目標3 みんなで和気町の公共交通を支える

- 3-1 町民みんなで公共交通を利用することで、持続的な運行を実現
- 3-2 交通事業者の協力により多様な運行の実現（予約型デマンドやまちなか線の運行委託など）
- 3-3 病院との連携により利便性を向上（バス利用の促進へ向けた待合環境の整備など）
- 3-4 温泉とのタイアップで地域との連携を強化
- 3-5 地域のイベントで公共交通を積極的に利用（貸しきり運行など）

目標4 利用したくなる公共交通を目指す

- 4-1 新技術の導入により利便性を高め過度な自動車利用から公共交通への転換
- 4-2 「公共交通に乗って出かけよう！」シリーズで情報発信
- 4-3 乗車体験イベントを通じて、公共交通の利用促進
- 4-4 バス停から家までなどのラストワンマイルの移動を新技術導入により検討
- 4-5 バスの中で定期券を購入できる環境整備

3. 目標に対応する課題

課題：町民のニーズに合わせた移動手段の確保

⇒目標1：多様な移動手段を選択する

課題：まちづくりとの連携

⇒目標2：和気駅周辺の賑わいを創出する

課題：町民の公共交通意識の向上

⇒目標3：みんなで和気町の公共交通を支える

課題：公共交通の利便性の向上

⇒目標4：利用したくなる公共交通を目指す

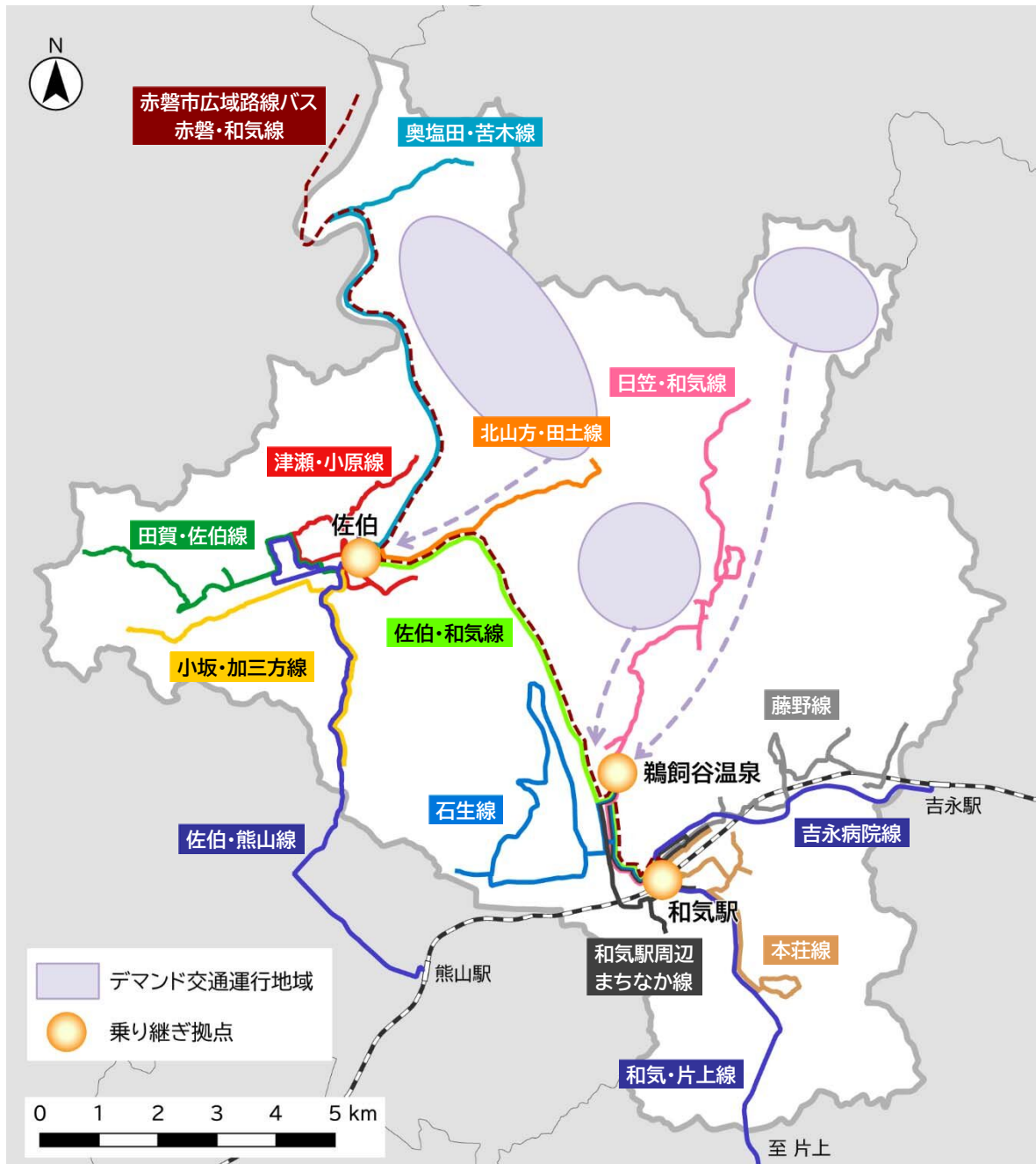
第7章 実施事業の評価指標およびスケジュール

1. 目標全体に対応した評価指標

目標に対応する評価指標として、「公共交通の利用者数」「公共交通の収支」「公共交通への公的資金投入額」の3つを設定する。

評価指標	算出方法	現状値 (R4)	目標値 (R10)
公共交通の 年間利用者数	赤磐・和気線、町営バス各 路線、デマンド交通各路線 の利用者総数※ ※利用者記録から把握	27,624 人	34,500 人 町営バス、デマンド交通はコロナ禍前である 令和元年度の水準に戻す。赤磐・和気線の令 和5年度の増便の効果も踏まえて設定。
町営バス・ デマンド交通 の収支率	収入額／支出額※ ※町の実績から算出	5.2%	現状維持 運行形態の変更等により、運行経費の増額が 見込まれるが、利用促進を図り収入額を増加 させ、現状維持を目指す。
利用者1人 当たりの 町の負担額	(運行経費－収入額) ※1／ 赤磐・和気線、町営バス各 路線、デマンド交通各路線 の利用者総数※2 ※1 町の実績から算出 ※2 利用者記録から把握	1,929 円	現状維持 運行形態の変更等により、町負担額の増額が 見込まれるが、利用促進を図り利用者数を増 加させ、現状維持を目指す。

2. 和気町公共交通ネットワークの将来イメージ



3. 実施事業に対応した評価指標

各実施事業については予約型デマンドの導入や、福祉部局のタクシーチケット導入などの新規事業があるため、初年度（R6 年度）は現状値を把握する。次年度以降は基準値を上回る目標設定を行い、毎年度検証を行うこととする。さらに、最終年度（R10 年度）の目標値については、基準値を把握した段階で設定する。

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-1 早朝は遠方への通学支援・通勤支援
事業内容	● 広域路線バス赤磐和気線について、早朝便を運行し、佐伯庁舎から JR 熊山駅へ運行している町営バスに接続することで、美咲町や津山市方面から和気町への通学を可能とする。また、佐伯庁舎での乗り換えにおいては、熊山駅だけでなく、直接和気駅へ接続する便を検討し、和気高校への進学支援に繋げる。 ● 赤磐和気線については、これまでも通勤・通学利用がある 1 便の運行に支障を来すことのないよう早朝のダイヤ設定とする。 ● 広域路線バス赤磐和気線の早朝便は佐伯庁舎で折り返し周匝に戻る便とすることで、周匝で乗り換え津山市方面への通学手段として支援する。 ● 町営バス和気・片上線について、通学時間帯に合わせた運行を行っている。今後も利用が見込まれるため、運行を継続する。
実施主体	和気町・赤磐市の共同事業、和気町・備前市の共同事業
評価指標	通学時間帯の年間利用者数
スケジュール	R5 年度から運行しているものは継続。R6 年度新規路線検討。

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-2 通学時間帯は、小中学生の通学支援
事業内容	● 幼稚園、小中学校へのスクールバスとして通学時間帯に運行する。始業式など学校行事で終日授業が行われない日などは、町営バスの路線の運行を運休し、スクールバス優先の運行を行う。
実施主体	和気町
評価指標	通学によるスクールバス利用者率の把握、町営バス年間運休本数
スケジュール	継続

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-3 昼間は、高齢者等の通院や買い物のための移動支援
事業内容	● 便別利用状況、バス停別利用状況に応じて、定時定路線のダイヤを充実させる。 ● 毎年の利用実績を確認しながら、適宜見直しを行う。
実施主体	和気町（一部、赤磐市、備前市との共同運行含む）
評価指標	路線別年間乗降者数、バス停別年間乗降者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-4 利用状況に応じたサービスの提供
事業内容	● 利用状況が少ないところや、現在交通空白地となっている地区では、定時定路線のサービスを廃止し予約型デマンドの導入を行う。予約型デマンドは乗り継ぎ拠点に接続させる。
実施主体	和気町（交通事業者への運行委託）
評価指標	年間利用者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-5 福祉部局と連携・調整を図り、移動が少し困難な方への支援
事業内容	● 福祉部局が把握している条件に当てはまる方に対し、タクシー回数券を販売する。タクシーでの移動を必要としている方へ充実した支援が行き渡るよう、販売価格に補助金額を上乗せしたタクシー回数券の販売を行うことで、利便性を求めるのではなく必須の方への支援を充実させる。
実施主体	和気町（福祉部局）
評価指標	タクシー回数券年間販売額
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-6 限られた資源をうまく配分し、多様な移動手段を確保
事業内容	● 現在、町営バスはスクールバスを活用して運行しているため、学校行事によってお昼前後の便が運休となってしまう。教育委員会と連携して、できるだけ町営バスの路線を運休することがないよう、遠足などの学校行事に観光バスを利用するなどの運用を工夫する。 ● GPS ロガーによるバス停到着時刻の検証を行い、定刻通りの運行を可能にする時刻表を作成し、信頼性の高い移動手段となるよう努めると共に、限られた台数を効率的に運行できるよう正確な情報を把握し分析する。
実施主体	和気町
評価指標	広域路線バス、町営バス、予約型デマンドの合計年間利用者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	1 多様な移動手段を選択する
実施事業	1-7 乗り継ぎ拠点の整備
事業内容	和気駅、佐伯庁舎、鶴飼谷温泉を乗り継ぎ拠点とし、乗換案内表示や待合環境の改善、拠点での乗り継ぎを考慮したダイヤ設定など、利便性の向上を図る。
実施主体	和気町
評価指標	バス停別年間乗降者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	2 和気駅周辺の賑わいを創出する
実施事業	2-1 和気町のどこに住んでいても、和気駅まで移動できる
事業内容	- 町営バスの全ての路線が和気駅までの乗り入れを行う。 - 佐伯地区の路線バスは全ての便を佐伯庁舎止めとし、佐伯庁舎-和気駅間を走行する路線への乗り換えを検討する。 - 佐伯庁舎から佐伯庁舎-和気駅間の路線への乗換は、待ち時間を少なくし円滑な乗り継ぎを検討する。
実施主体	和気町（一部、赤磐市、備前市との共同運行含む）
評価指標	路線別年間和気駅乗降客数、JR 和気駅利用者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	2 和気駅周辺の賑わいを創出する
実施事業	2-2 和気駅周辺の病院や商業施設を周遊するまちなか線を充実
事業内容	- 和気駅周辺のまちなか線は、用途地域の「商業地域」の商店や、「準工業地域」の沿道型商業施設などを中心に、和気駅、役場、鶴飼谷温泉、主な病院施設を廻ることとし、周遊時間を短縮する。 - 運行委託により 2 台体制で回遊し、まちなか移動の利便性を高める。
実施主体	和気町（運行委託）
評価指標	まちなか線年間利用者数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	2 和気駅周辺の賑わいを創出する
実施事業	2-3 商業施設との連携により利便性向上
事業内容	● まちなか線周辺の商業施設との連携により、公共交通機関を利用した方へのポイントサービスや割引特典など協賛店として登録してもらう。 ● 大型商業施設では、購入した荷物の配達サービス（有料）を行うなど、自宅近くのバス停から自宅までの荷物移動を支援する協賛店として登録してもらう。 ● 施設敷地内の動線や駐車場の交通安全を考え、事業者さんと一緒に対策を検討し、利用者の利便性向上に繋げる。 ● 和気駅周辺は一定の商業施設などが集積しており、駐車場も完備されているが、混雑する時には事故の心配もあるため、利便性を向上することで、公共交通への転換に繋げる。
実施主体	まちなか線対象範囲内の各店舗
評価指標	登録事業者数：毎年 3 施設
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降継続

目標	2 和気駅周辺の賑わいを創出する
実施事業	2-4 待ち時間を楽しめるよう、待合空間の創出
事業内容	● バス停周辺の商業施設等と協議し、待ち時間を快適に過ごせる空間づくりを推進する。
実施主体	まちなか線対象範囲内の各店舗（イスの購入などは町が支援）
評価指標	実施事業者数：毎年 1 施設
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降継続

目標	3 みんなで和気町の公共交通を支える
実施事業	3-1 町民みんなで公共交通を利用することで、持続的な運行を実現
事業内容	● 利用時間帯別に公共交通の利用者が特定されるところがあるが、通学、買い物、通院、娯楽など、様々なシーンに対して、多様な世代の人が公共交通を使い支える機運の醸成を行う。
実施主体	和気町
評価指標	町営バス年間利用者数、アンケート調査「町営バスを利用したことがある」率向上
スケジュール	R6 年度実施、計画見直し前のアンケート調査

目標	3 みんなで和気町の公共交通を支える
実施事業	3-2 交通事業者の協力により多様な運行の実現
事業内容	● 町内にタクシー事業者があり存続していくことが、公共交通の選択肢の豊かさにつながり町民の利便性が確保される。そのためにも町内タクシー事業者の協力を得て、運行の一部を委託する。
実施主体	和気町（タクシー事業者への運行委託）
評価指標	予約型デマンド年間利用者数、町営バスまちなか線年間乗降客数
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降見直し・実施

目標	3 みんなで和気町の公共交通を支える
実施事業	3-3 病院との連携により利便性を向上
事業内容	● 利用者が病院の建物内でバスを待てるよう、待合環境の整備を行う。バスの到着がわかるよう入口近くのベンチ設置、待合時間にテレビを見たり読書をしたり、Wi-Fi 環境を整備したりとより快適になるよう協賛病院を募る。
実施主体	各病院
評価指標	実施事業者数：毎年 1 施設
スケジュール	R6 年度検討・実施、R7 年度以降継続

目標	3 みんなで和気町の公共交通を支える
実施事業	3-4 温泉とのタイアップで地域との連携を強化
事業内容	● 公共交通で町営の和気鶴飼谷温泉を利用する人は多く、特に一本で行ける路線上に居住する人の利用頻度は高い。温泉施設の人気は高く利用者も多いため、地区限定の特典がある日を設定するなど温泉とのタイアップで公共交通の利用を促進する。
実施主体	和気町（鶴飼谷温泉企画部局含む）
評価指標	公共交通を利用して訪れた温泉利用者数
スケジュール	R6 年度企画・実施、R7 年度継続実施

目標	3 みんなで和気町の公共交通を支える
実施事業	3-5 地域のイベントで公共交通を積極的に利用
事業内容	● 自治会単位で行楽などのお出かけをして親睦を深める機会に、バスを貸し切り利用する。町営バスとしても利用している車両で移動し、路線バスについても周知する。
実施主体	和気町
評価指標	年間利用自治会数
スケジュール	R6 年度企画・実施、R7 年度継続実施

目標	4 利用したくなる公共交通を目指す
実施事業	4-1 新技術の導入により利便性を高め過度な自動車利用から公共交通への転換
事業内容	● スマートフォンからの予約、ポイント制度、予約受付などデジタル化を進め、高齢者も利用しやすく、若い世代も便利に利用できる公共交通を推進する。
実施主体	和気町
評価指標	アプリ利用者数
スケジュール	R6 年度アプリ導入の検討、R7 年度導入準備、R8 年度実施

目標	4 利用したくなる公共交通を目指す
実施事業	4-2 「公共交通に乗って出かけよう！」シリーズで情報発信
事業内容	● 広報わけの中で、町民モニターによる移動とお出かけ先の情報を発信。身近な人が読者モデルで登場することで人気シリーズに育て、情報発信する。
実施主体	和気町
評価指標	広報掲載回数：年 4 回
スケジュール	R6 年度実施、R7 年度以降継続。

目標	4 利用したくなる公共交通を目指す
実施事業	4-3 乗車体験イベントを通じて、公共交通の利用促進
事業内容	● 自治会単位でバスの乗り方教室を行い、実際に乗車体験をすることで、初めて利用する人のハードルを下げ、公共交通に親しむきっかけをつくる。 ● 町営バスでお出かけした人は特典がもらえる乗車体験イベントの企画・運営。
実施主体	和気町
評価指標	乗り方教室実施回数：年 3 回、乗車体験イベント実施回数：年 1 回
スケジュール	R6 年度から実施、R7 年度以降継続。

目標	4 利用したくなる公共交通を目指す
実施事業	4-4 バス停から家までなどのラストワンマイルの移動を新技術導入により検討
事業内容	● 自宅からバス停までの間の移動について、新技術の導入により荷物を持って楽に移動できる方法を検討。(例えばシニアカー充電基地、地区内の共助による拠点バス停までの移動支援、自動運転導入など)
実施主体	和気町
評価指標	社会実験実施
スケジュール	R6 年度検討、R7 年度実施準備、R8 年度社会実験実施

目標	4 利用したくなる公共交通を目指す
実施事業	4-5 バスの中で定期券を購入できる環境整備
事業内容	● 定期券の購入は役場または支所で行ってきたが、購入のためには役場まで出向くことが必要であったため、車内で申し込めるよう R5 年度に環境を整備した。 ● 今後は、より簡単に定期券を購入できるよう、デジタル化を見据えた環境整備を検討する。
実施主体	和気町
評価指標	定期券購入者数
スケジュール	R6 年度継続実施、デジタル化の検討、R7 年度実施準備、R8 年度実施

第8章 計画の推進

本計画は、計画期間全体での PDCA と年度単位での PDCA により評価・検証を行い、必要に応じて事業の改善を図りながら目標達成に向けて事業を推進する。

計画期間全体

年度	R 5	R 6 (1年目)	R 7 (2年目)	R 8 (3年目)	R 9 (4年目)	R 10 (最終年度)
計画 Plan	計画策定	必要に応じて適宜見直し				次期計画策定
事業の実施 Do						
評価 Check	事業の実施状況や 目標の達成状況の評価					
見直し Action	次年度の取組方針や 事業内容の検討					

単年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
取組方針・ 内容の決定 Plan												
事業の実施 Do												
評価 Check												
見直し Action												

和気町地域公共交通計画

発行日 令和 6 年 3 月

発 行 和気町

編 集 和気町総務部危機管理室

〒709 - 0495 岡山県和気郡和気町尺所 555

TEL : 0869 - 93 - 1121 (代表)

